

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

139

デジタルの弊害

昨今、信頼（トラス）を掲げる動きが目につく。例えば人工知能（AI）関連では、

「信頼される高品質なAI」が掲げられ、欧州委員会から「信頼できるAIのための倫理指針」が発表された。

「信頼性のある自由なデータ流通」が提唱された。国際学会でも信頼に関する問題が論じられる機会が増えている。

相手を信頼するというのは、必ずしも完全

な裏付けがなくとも、相手は自分を裏切らないと思えるということ

である。信頼すること、動く・意思決定できるよ

うになる。日常でもビジネスでも、協力や取

ところが昨今、フェイク

「総合知」新たな信頼築く



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター フェロー（システム・情報科学技術ユニット） 福島 俊一

東京大学理学部物理学科卒、NECにて自然言語処理・情報検査の研究開発に従事後、16年から現職。工学博士。11-13年東大大学院情報理工学研究科客員教授、情報処理学会フェロー。

イクニユースによる世だ。しかし、デジタル論誘導、なりすましに化の進展に伴い、イン

道具・判断材料

付くというのは、今日、ツクス型AIをはじめ、複雑でその仕組みを理解することが難しい技術・システムを相手が、今日の重要課題で

判断を助けるため、デジタル認証・生体認証、改ざんを防ぐブロックチェーン、AIの判定

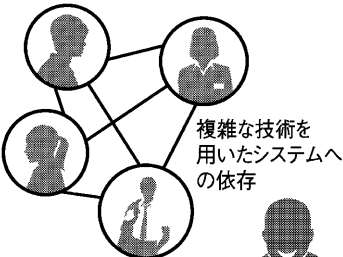
デジタル社会における信頼のほころび

バーチャルな人間関係の広がり

デジタル社会以前

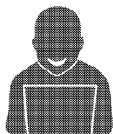


身近な人たち同士の信頼関係



複雑な技術を用いたシステムへの依存

だます技術の高度化



出典：JST 研究開発戦略センター「トラスト研究の潮流 ～人文・社会科学から人工知能、医療まで～」2022年2月 <https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2021-WR-05.html>

ど、さまざまな研究開発が進められている。科学の知見を合わせた「総合知」の活用が道具・判断材料であり、信頼関係が築けるかは、人々の主観や社会規範などにも大きく依存的。折しも「第6期科学技術・イノベーション基本計画」で、

（金曜日に掲載）